

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇R7 全国学力学習状況調査の結果より、6年生算数全体結果では北海道の平均より高い結果となった。</p> <p>◇全児童で実施した R7 札幌市の共通指標のアンケートより、「人の意見を聞いて、それを参考にし自分の考えを見直すことがある。」の項目では、昨年度の本校の値より高い結果となった。8割以上が肯定的な回答をしていた。</p> <p>◇全校で自主学習を取り入れ、自学集会などを全校で行うことで、児童の計画的な学習習慣が付きつつある。自主学習2年目となり、今後更なる効果が期待される。</p>
	<p>◇R7 全国学力学習状況調査の結果より、「学習した内容を見直して次の学習につなげること」「授業で学んだことを生かすこと」の項目が低く、学習の繋がり意識が低かった。</p> <p>◇R7 札幌市の共通指標のアンケートより、「振り返ったことを次に生かそうとしている」の項目が、全市と比べて8%以上下回っている。授業の中で振り返りの時間を確保していくことが課題である。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	<p>◇R7 札幌市の共通指標のアンケートより「分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている」の項目では、肯定的な回答が全校で86%という結果となった。普段から分からないことを認め合う雰囲気形成されていることが分かる。「意見の違う人とも、よく話し合おうとしている」の項目では、全市と比べて4%下回っている。意見が異なる人と話し合う場作りが必要になってくる。</p>

### 「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力 自ら学びを進める力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) AAR サイクルを意識した単元構成</p> <p>本校の研究では、単元、題材を見通して授業を構成することを目指している。1時間ごとの学びが積み重なる構成にすることにより、<u>イントロダクション→個別探究→協働探究→リフレクション</u>を続けていく。</p> <p>(2) 子どもに必要な力を具現化</p> <p>「見通しをもって学習に取り組む力」「自分の考えをもち、解決しようとする力」「自分の考えを伝え合う力」「算数の基礎的・基本的な力」「考えを見直し、思考を再構築する力」「振り返り、次に生かす力」などの子どもに必要な力を子どもに必要な力と設定し、これらの力が子どもたちに身に付くように単元や構成を工夫していく。</p>	<p>①子どもの意思を尊重する</p> <p>学級や委員会 Google クラスルームを子ども自身が活用することにより、自治的な活動を充実させる。<u>子どもの思いが生かされる活動を</u>増やしていくことで、子どもたち自身の達成感を増やしていく。</p> <p>②子どもに向き合う</p> <p>シャボテンログを活用し子どもたちの日々の変化を教師が把握し、適切な声掛けや支援をしていく。悩みなどを相談しやすい環境作りを教職員間で共有し、「チーム学校」で支援していく。</p> <p>③異学年交流</p> <p>運動会の2学年合同練習や、学習発表会の感想カードの交流、委員会活動での異学年交流を目的とした集会などを計画し、様々な場面で異学年と交流する機会を増やす。</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
	<p>◇1人1台端末の活用による学びの充実</p> <p>児童用 Google クラスルーム、学級や委員会 Google クラスルームの活用により「学ぶ力」の育成を図る。また、今年度から運用を開始する「新西サイト」で自学や、授業に関することなど学年間の情報を教職員で共有する。Google フォームやアンケート等の活用で教師の一人一人の意見を活用するシステムを作る。(2)について、学びポケットを用いて授業の活用状況を定期的に確認していく。</p>	

<本プログラムの実行に向けて>

